

## 第1回富士見市生涯学習推進市民懇談会 会議録

日時 令和元年10月23日(水) 13:30~15:45  
場所 鶴瀬コミュニティセンター第3集会室  
出席者 ○市民懇談会参加者

猪俣	関根	新井	荒井	浅野	瀬戸
○	○	欠	○	○	○
上川	戸塚	搦木	小栗	渡邊	大下
○	○	欠	○	○	○

○事務局

【地域文化振興課】佐藤主査

【生涯学習課】 深迫課長(途中退席)、加治主査

◇自己紹介

◇議 事

### 【市の生涯学習推進基本計画について】

概要について、事務局より説明。

参加者) 約20年間推進してきている計画なので、時代に即した形に計画を合わせ策定してもらいたい。

参加者) 計画の中の庁内委員会は、どのような構成になっているのか。

事務局) 庁内委員は各部局より参画してもらっている。計画の66ページに掲載しているので確認いただきたい。

参加者) 全体の説明を受けて、内容については納得したが、具体的なことはもう少し計画を読み込まないとイメージができない。それくらい、生涯学習という全体像が大きいと感じている。

参加者) 「学習とは何か」と考えてしまう。高齢者になると、学習欲求よりも健康欲求(健康志向)が強くなるイメージがある。健康のために何か活動を行うことが学習の範疇に入るのであれば、学習していると言えると思われるが、一般的に、健康のためにやっているウォーキングが、生涯学習かと言われると、悩んでしまう側面がある。

事務局) 「生涯学習」の定義は難しく、人によりとらえ方は様々と思われる。そのため、市民アンケートにもその内容を入れている。

参加者) 社会のあらゆる分野において、生涯にわたり人格を磨き続けることのようなイメージを持っている。学習することは、脳に刺激を与えることにつながるため、非常によいと認識している。

参加者) 市民にアンケートで意見を求めることもひとつの指標となるが、考え方も様々であり、市民により個人差がありすぎることも、考えとしてもっていない

くてはならないと思う。高齢化が進んでいる中で、あらゆる世代が一緒にできるかたちを整えることが大事だと感じている。

参加者) 行政として、あらゆる学習の支援を行うことや生涯学習の定義を考えるとこののではなく、本当に学びたい人が学べないことがいちばんの不幸である。経済的理由などによらず、学習意欲を満たすためのセーフティネットの構築が必要ではないか。

参加者) 日ごろ感じているのは、大人は子どもに対して様々な経験の場を提供してあげることが必要で、そのような環境の中で学習意欲などがでてくるものではないかと思っている。

参加者) 従来通りというわけではなく、できるだけ多くの人に提供できるものが良い。以前、富士見市では市内サークル数が他市町と比べ非常に多いと聞いた。多様にあればあるほど、その人に合った形のものがみつかると思う。

### 【アンケートについて】

参加者) 男女の項目について、記述式にしているのはよい。

参加者) 全体の印象として、「生涯学習活動」が多く使用されている。生涯学習を知っていることありきではなく、意識下で行っているものも実は生涯学習につながっているというような、気づきにつなげられる問いかけがよいのではないか。

参加者) アンケートの中に、「生涯学習を知っているか」の項目を設け、認知度を確認したほうが良い。そこから活動の有無の問いかけにすると、自然なかたちになるのではないか。

※ アンケートについて、設問の順序をもう一度精査し、来月実施予定。

※ 会議の開催時間について、できるだけ参加者の都合のよい時間帯が望ましいことから、後日アンケートを取らせていただき調整を図ることです承。